

町医者だより

平成20年09月号

インターネットによる医療情報の取得

インターネットによる検索は今や無くてはならない道具になっています。今月はインターネットを用いた医療情報の取得について喘息を例に述べたいと思います。

質の高い情報の取得を

グーグル、ヤフーなどの検索サイトがありますが、いかに質の高い情報を得るかが課題です。喘息に関しては、【環境再生保全機構】や【日本アレルギー協会】などが患者さん向けのサイトを開いています。また【グラクソ・スミスクライン】や【アストラゼネカ】といった吸入ステロイドを発売する製薬会社名で検索すると喘息関連のサイトを発見できます。ロイコトリエン拮抗剤のシングレアを販売する【万有】のホームページには海外では有名な【メルクマニユアル 家庭版】があります。医療関係者、患者個人、あるいはアレルギー関連業者(?)のホームページもたくさん引っかかってくるのですが、玉石混淆で何が真実か見極めるのが大変難しいです。その中で私のお勧めするのは岐阜県で開業されている【宮川医院】のホームページです。ただしこの中で気になるのは吸入ステロイドによる声枯れに関する記述です。吸入ステロイドによる声枯れの原因は実際はよく分かっていません。というのも長時間作用型気管支拡張剤であるセレVENT吸入でも声枯れが見られるからです。どんどん話が脱線しますが、吸入ステロイドというと口の中が真っ白になってしまうとの記述が患者さんのブログなどで散見されます。口腔内カンジダ症といいますが、20年以上吸入ステロイドを処方してきた中で口腔内カンジダ症になってしまった方は10名以内だと思います。カンジダは酵母の一種で口の中に常在しており、以前から口内炎を起こしやすい方や舌の白苔(はくたい)などがあり口内衛生環境があまりよくない方に症状が出やすいと思います。話を戻しますがインターネット検索で大切なことは、少なくとも匿名の記述は避け複数の記述を読むことだと思います。

本当はこちらをお勧めします

私自身も医療情報の大半をインターネットを介して取得しています。【PubMed】というアメリカ国立生物工学情報センターが一般に公開している医学関連文献データベースを使用しています。世界中で発行されている医学雑誌の中から該当する医学論文のリストが出てきます。日本語でもどこの言語の論文でも要約が英語で書かれてさえいれば検索できますし、論文の要旨(まとめ)を読むことができます。医学論文はレビューアーといわれる人達の審査を受けて出版されます。多いときには何万という論文が引っかかってくるのですが、すべて読むことは物理的に不可能です。そこで読むべき論文を選別していきます。その際指標にするのがインパクトファクター(IF)と呼ばれる点数です。論文を書く際に誰々がこんなことをいっていましたと過去に書かれた論文を引用します。例えばある雑誌に載った自分の書いた論文を今年一年間で10名の研究者や医者が引用してくれたとします。その自分の論文のIFは10点となります。つまりIFの高い論文は多くの研究者に認められたことを意味しそのような論文を多く載せている医学雑誌がより信頼できるということになります(非常に厳しい世界です)。IFが高いのはアメリカの医学学会が出版している雑誌で、その次がヨーロッパです。その下にアジアがきます。残念ながら日本語で書かれている論文は限りなくゼロ点に近いIFがついていません。私は読む論文を絞った後に大学の図書館にアクセスして論文をPDFファイルの形でダウンロードして読んでいます。IFは2年くらい前の物は無料でどなたでも見ることができます。

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科